

※サンプルを参照して以下に記入いただき、完成後にメールの添付ファイルで学科等の FD 委員に送信してください。

**報告者氏名** 生田目 学文（総合マネジメント学部、情報福祉マネジメント学科）

**FD 名称** 研究倫理シリーズ第 3 回：  
盗用と言われない英語論文の執筆 --大学教員は何を指導すべきか--

**主 催** 東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター

**開催日時** 2015 年 6 月 22 日（月） 15:00-18:00

**開催場所** 東北大学川内北キャンパス 講義棟 A 棟 A307

**講 師** 吉村富美子（東北学院大文学部英文学科・教授）

**FD 内容** 次の内容について講義を受けた。

1. 盗用とは何か
  - ・著作権の問題と引用ルールの違い
  - ・盗用の種類
  - ・英語圏と日本の差
  - ・日本における最近の取り組み
2. 文献研究の意味
  - ・序論の書き方
  - ・文系と理系の違い
  - ・文章構成例
  - ・「見えない引用」の危険
  - ・論文指導法
  - ・研究アウトラインと研究プロセス、チェックリスト
3. 英語教員の役割
  - ・状況モデル
  - ・言い換えプロセス
  - ・アカデミック英語
  - ・英語論文を理解するためには、英語力だけではなく、その研究分野の知識が必要
4. F A Q
  - ・盗用判定
  - ・言い換への 4 分類

**報告書コメント** 教員の大学院生への英語論文の指導法というのが主題であるとの認識であったが、われわれ研究者自身が英語論文を書く上で参考になるのではないかと考え参加した。その結果、自分自身の執筆だけでなく、学部生への卒論指導にも役立つ内容があり、たいへん有意義であった。

中でも、引用には①直接引用②言い換え③要約という 3 種類があり、まだ明確な基準が統一されていない一方で、近年の捏造事件などを背景に英語圏ではこれらについて非常に厳しい措置が取られるようになっていくことが印象深かった。他方、われわれにとって重要である英語を母国語としない研究者の英語論文に対する盗用判定の評価は、文化論も相まって様々であり、今後の動向が注目される。

「言い換え」の際に自分自身の言葉に置き換える過程で用いられる「状況モデル」は、学部生の論文引用にも役立つと思われた。

報告日： 平成 27 年 6 月 23 日